

ネパールこどもクラブ代表古川十豊(しゅうと)より

大阪桐蔭高校女子サッカー一部関係者の皆様へ

今回は天野監督のご厚意、赤木詩歩さんのご協力により、このような機会を頂けたこと誠に感謝申し上げます。

現在私は、子供達の「うまくなりたい」を応援することを理念に、ネパールの児童養護施設に住む子供達を対象にサッカーを通じて①クラブチームの創設 ②サッカー大会の開催 ③指導者の派遣 ④支援物資の4つのアクションを行なっています。

さて、私とネパールとのきっかけは、2015年3月にネパールの児童養護施設を訪ねたことにあります。状況は深刻で、子供達は児童養護施設に住んでいることで自分が与えられている物事の差を、親のいる子供達と比較してしまいストレスを溜め込んでいました。

そういった状況を知った時に、このままでは何事も他人のせいにして生きていくのではないかと私は思いました。しかし、私は彼らとたまたまサッカーをする機会を頂き、小さな空き地でボールは1つ、裸足でサッカー、ゴールはない、指導者もない状況で熱心にプレイしていた彼らを見て、唯一彼らが自分に向き合って打ち込めるものはサッカーであると気付きました。子供達が「生まれた場所で運命が決まる」ことを感じずに成長するためには、大好きなサッカーを熱心に打ち込むことで解消されるのではないかと考えました。その後、団体を立ち上げ、たくさん失敗しながらも皆様の支えもあり、最近では指導者の派遣をネパールにて実現することができました。

私たちが大切にしていることは「今を楽しめない人に希望溢れる未来は描けない」ということです。今回、皆様と共に楽しみながら社会のために少しでもアクションを起こしていきたいと思ひ、長文になりましたがこうして綴らせていただきました。

ご協力のほど、何卒よろしくお願い致します。

大阪桐蔭女子サッカー一部9期生の赤木詩歩です

今回3月からネパールに行くことになりました。

そこで、ネパールの子供たちにボールとスパイクを送りたいと考えております。

私は、たくさんの方を学んできたサッカーを通して、広い世界を観たいという想いがあり、この度『ネパールこどもクラブ』という学生団体のもとで、その機会をいただくことができました。

つきましては、その活動の中でたくさんの価値観に触れ、多くの学びを得て、ぜひ大阪桐蔭女子サッカー部の後輩たちにも、私が得たものを伝えたいと思っております。

ネパールは発展途上国であり、ネパールの子供たちみんながサッカーできる環境にあるわけではありません。そこで今回集めさせていただく物資は、子供たちに大好きなサッカーを思いっきりしてもらうために活用させていただきます。

ご協力のほど宜しくお願い致します。